

☆7月のなかよし一む・ミニ・ミックスでは・・・☆

7月は、天候に合わせて、水遊びや新聞遊びを楽しみましたよ(*'▽')



☆シニアサロンぽぽらでは・・・☆

保育園の4歳児、5歳児の子どもたちが、歌やお遊戯の発表をしてくれました♪
みんなで音楽に合わせて体を動かして、リラックス!!
最後に、佐賀の民話の紙芝居を見て楽しみました。



「シニアサロンぽぽら」に遊びにきませんか?

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。

今月は、バスハイクです。

日時 8月30日(火) 9時から12時30分

内容:「野中かまぼこ」工場見学

集合場所:三光保育園玄関

(8時55分までに、集合して下さい)

※電話でお申し込み下さい。

TEL 31-6877



♪育児相談・食育相談をしています♪



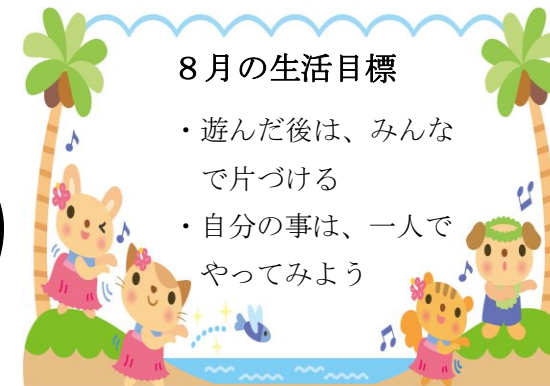
三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。

お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。
事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。(31-6877)



永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽら
2016年8月発行 第112号
認定こども園 西九州大学附属三光保育園
TEL:0952-31-6877



8月の生活目標

- ・遊んだ後は、みんな
で片づける
- ・自分の事は、一人で
やってみよう

猛暑お見舞い申し上げます。

残暑お見舞い・・・と書きたいところですが、梅雨が明けて以降、毎日最高気温が上昇し、記録の塗り替えが続いています。園で飼育している小動物さんたちもぐったりしてきて、冷たい水と取り換えたり野菜の補充をしたりと運転手さんたちがこまめにお世話をしてくださって乗り切っています。あとひと月あまり、皆さんも休養と栄養、睡眠を十分とって今年の夏を乗り切ってください。

さて、先日ベネッセ教育総合研究所が季節ごとに発行している情報誌に掲載されていた幼児の生活アンケートの結果で気になるところがありました。乳幼児が平日一緒に遊ぶ相手が、この20年間で母親が55.1%から86%へ30.9%増え、友達は56.1%から27.3%へ28.8%減少していました。分析では、友達が減っている背景には、降園時間が遅い保育園児が増えていることや、少子化により地域で遊ぶ子どもが減少していることが考えられています。幼児が同世代の子どもと遊ぶ機会は、園や子育て支援の場所に狭まってきているのだなあと感じた次第です。家庭で子育てをされている方々は、ぜひ近くの子育て支援センターや集いの場を活用して、いろいろなお子様と遊ぶ機会をたくさん作ってください。

「なかよしミックス」に遊びにきませんか!

就園前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して親子で楽しく遊ぶ集いの場です。

★第5回目の8月は、

日時: 8月23日(火)10:00~12:00

8月25日(木)10:00~12:00

内容: わらべうた遊びを楽しむ

持ってくるもの: コップ(子ども用)

場所: さんこう・ぽぽら



※駐車場は三光保育園からお入り下さい。事前のお申し込みが必要です。

※1日(月)9:30より受付(平日9:30~17:00まで) いずれの日も先着16組の親子

「フリーデー」にもどうぞ!

日時: 8月18日(木)・8月19日(金) 10:00~12:00

お好きな時間にお出かけ下さい。

場所: さんこう・ぽぽら

「保育士を目指す学生たちはとても頑張っています！」

西九州大学短期大学部 幼児保育学科 准教授 占部尊士

私はこれまで医療機関においてソーシャルワーカーとして仕事をしてきました。そこでは多くの患者やその家族に出会いましたが、特に深夜に運ばれてくる子どもたちの中には家庭環境に課題を抱えるなど普段見えない状況が浮き彫りになることがあります。その問題は虐待などの子育て環境のみならず、先天性の病気や障がいについての不安、さらには経済的な悩みなど多岐にわたります。これら一つひとつに対し、こころの声に耳を傾け、子ども達の将来の為に何ができるのかを常に考えてきました。

そして現在は、これまでの経験を生かし、将来の夢として保育士を目指す学生達に対して社会福祉専門職の役割について教えています。具体的には、家庭環境を取り巻く社会構造の著しい変化の中で行われる保育活動や子育ての支援活動、そして地域福祉（子育てしやすい地域をめざす）活動、さらには子どもの人権や権利擁護について学ぶ機会を提供しています

次の事例は「子育てに悩む母親の切実な訴え」として、講義において学生とともに考えているものです。

A が受けた電話の相手は『無言』であった。しかしながら、電話の先では幼い子どもの泣く声が聞こえていた。A は電話をかけてきた相手に対し、優しい口調で語りかけた。すると、しばらく沈黙していた電話の相手がゆっくりと語り始めた。「私はダメなんです」「もう無理なんです…」電話の相手は母親らしき若い女性であった。

そこで、A は相手の話をしっかり受け止めるとともに、少しずつ現在の状況について問いかけることにした。すると母親は「もう、やっていけません」「このままだとおかしくなっちゃう。壊れてしまいそうです…」といい、かなり精神的に追い詰められている様子であった。どうやら話の内容から母親は最近、家に閉じこもりがちで、屋間もほとんど横になっているとのことであった。

さらに母親は「子どもの食事もおムツ替えも何もかもで…もう気力がないんです」といい、「この子さえいなければ…と考えてしまう時があり、そんな自分が嫌で仕方ない」とも語った。そして「私なりにはがんばったんです。がんばっているんですよ」「でももう、何がダメなのかわからない…」と辛そうな様子であった。

その一方で母親は、どうしても子どものことを可愛く思えない気持ちがあることを告白し、この気持ちについては「夫には絶対に知られたくない」といい、辛い気持ちを誰も受け止めてはくれないとのことであった。そこでA は家族関係について聞いてみることにした。すると母親は「誰にも言えない、言いたくないんです」と助けてくれる人がいない苦しさについて訴えた。さらに孤独感による不安な気持ちとともに、夫が言ったという「お前は結婚前に『子どもが好きだ』って言っていたらう」とか「俺は仕事があるんだから、家のことぐらいいちやんとしてくれよ」との言葉で、さらに追い詰められているようであった。

「このままだと本当に…」母親から語られる言葉はとても切実なものであった。

(出典)「私たちの暮らしとソーシャルワークⅡ」(保育出版社)から筆者修正

日々、学生達は一人前の保育士になるために多くのことを学んでいます。しかしながら、子育ての経験がないために、若い学生達は現実の子育ての大変さ、そして意義・喜びについての理解に苦労しています。

そこで皆様へお願いがあります。現在、大学教育は実践的な活動や経験による学びへと変わりつつあります。ついては、保育士を目指す学生たちが実習などで園を訪れているときに今まさに子育てを経験されている皆さま方の声をぜひ聞かせてあげてください。そして、子育てについて共に考える機会をもちましょう。

保育士不足が叫ばれる昨今において、社会全体で子育ての環境を考えていくためにも、彼ら彼女らが一人前の保育士になるための積極的な支援が求められています。

「油売りカンタービレ(その2)」

西九州大健康栄養学部教授 柳田晃良

(佐賀大客員教授、ペルーANCASH 国立大学名誉教授)

忙中閑あり、時間を無駄に使うことを「油を売る」と言う。その由来は昔油商人が売り歩いていたとき、粘性が高い油を注ぐのに時間がかかるため無駄話をして時間をつないだことに由来するようです。私も油売りの話題 2 つ。

話題 1：病気の予防には薬より栄養と運動の方が効果がある話。

食べ物が生活習慣病の発症や予防に関係することは知られています。そのため、病気の予防に役立つ食品、いわゆる機能性食品の研究・開発が世界中で盛んに行われています。本当に栄養や運動が疾病予防に役立つのか疑問を持たれている人も多いと思いますが、ヒトでのエビデンスが多く報告されています。例えば、ハーバード大学の糖尿病に関する研究では、典型的な糖尿病治療薬を使うと確かに 4 年後では 36% の治療効果が得られますが、一方薬を使わず栄養と運動だけの群では 58% も低下することが報告されています。同様な成績は動脈硬化症の治験でも得られています。我々の想像以上に、栄養と運動の効果は高いようです。

話題 2：栄養が胎児の遺伝子に影響する話

雑誌などで赤ちゃんは大きく産むのか小さく産んで大きく育てるのか、話題になっていますが、それに結論がでました。胎児や出生児体重が少ないと、成人になってから生活習慣病などになる確立が高いようです。歴史をひもといても、「オランダの飢餓の冬」と呼ばれた食糧不足の時代にオランダの妊婦から生まれた子供たちは成人後に生活習慣病などになる確立が非常に高かったことが報告されています。最近の研究では、胎児は妊婦の栄養不足に対応するため遺伝子に修飾を起こして対処しているとのこと。学校では遺伝子 DNA は未来永劫変化しないと教えられていましたが、どうも違うようです。このことを難しい言葉では「エピジェネティック」といいます。スタイルを気にする女性が妊娠したあと十分栄養を取らないと胎児の栄養が不足し、低出生体重児となり成人になって肥満・糖尿病などの疾患リスクが高くなるのです。それだけでなく、学習能にも影響しているとのデータが最近報告されています。最近の日本女性は体重が低すぎるのが問題となっています。生まれてくる子供の将来のためにも適切な栄養摂取と体重を保持する必要があります。